



正宗大士医師

なげている。
同院では主に全身麻酔が
必要な手術で麻酔科医が携
わる。全身麻酔は全身の機
能を抑制する方向に働くこ

医療最前線

「やまなし」 「まいる」 「まいる」 「まいる」

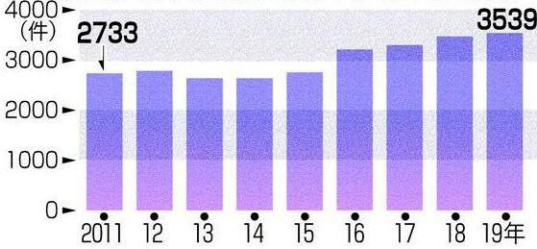
早く
きれいに

県立中央病院から

〈216〉

手術中の麻酔薬投与だけ
でなく、輸血や輸液、患者
の呼吸や循環などの全身管
理を担う麻酔科医。山梨県
立中央病院には9人が在籍
し、安全を第一に考えて麻
酔の手法を検討している。
術後の痛みも和らげること
で、早期の回復や退院につ

山梨県立中央病院の麻酔科医担当症例数



麻酔の手法 全身と局所を併用 痛み軽減、早期回復に効果

とが多い。自発呼吸が難し
くなり、多くの症例で気管
挿管などを行って人工呼吸
器を装着。麻酔科医は、手
術中に血圧や心電図などの
データを継続的に確認しな
がら、必要に応じた処置を
行う。

麻酔に当たっては、患者
の負担軽減を意識。例えば、
痛みの強い腹部や胸部など
の手術には、全身麻酔に加
え、局所麻酔の一種「硬膜
外麻酔」を併用。麻酔薬の
全投与量を減らせるメリッ
トがあるほか、硬膜外麻酔
にはベッドから離れて体を動
かすことができるようになる。
リハビリ期間の短縮、
早期の退院に結びつくとい
う。

近年は口腔ケアの重要性
も指摘されるようになって
きた。口内が不衛生だと、気
管挿管自体の難易度が増
し、誤嚥性肺炎などのリス
クも高まるためだ。正宗医
師は「手術を安全に行うた
めには患者側も口内から
口腔ケアを意識してほし
い」と呼び掛ける。

は術後も持続的に注入でき
るため、患者の意識が戻つ
た後の痛みも取り除くこと
ができる。同院は技術的に
難しいといわれる小児を対
象にした硬膜外麻酔も経
験豊富な医師を中心に積
極的に実施。小児専門病院
と同等の麻酔を提供してい
る。
「痛みが少なければ早期
の回復につながる」と話す
のは同院麻酔科部長の正宗
大士医師。術後の早い時期
に併せて最善の麻酔を

薬を服用している患者の場
合、出血が止まらなくなる
恐れがあり使用できない。
手術前に服用薬や既往症の
確認は欠かせず、麻酔科医
は手術の依頼が入ればカル
テのチェックだけでなく患
者の診察を行う。
正宗医師は「しばらく薬
の服用を中止できる状況
なのか、別の手法を取り入
れるのか。執刀医、薬剤師
なども相談し、患者の状
況に応じて最善の麻酔を
します」

総合周産期母子医療セン
ターや高度救急救命センタ
ーの患者の手術にも麻酔科
医が積極的に携わるよう
なり、同院の麻酔科医が担
当した症例数は増加。19年
は3539件で、11年(2
733件)から3割ほど増
えた。高齢者や合併症のあ
る患者、重症患者の手術は
今後も増加することが予想
され、手術の安全性を高め
る麻酔科医の存在意義は高
まっている。